

夢合長壽鑑繪抄

全

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81

安政四丁巳歲新刻

松川半山畫圖

夢合長壽鑑繪抄

由先ありせちあうぶわくくこ え せう

浪華書肆

積玉圃



夢合長壽鑑繪抄序

周禮之曰六夢之長也... 思夢中之福多也... 皆之福也... 明之終也... 夢之始也... 夢之合也... 夢之福也... 夢之言也...



甲冑虎身

護大言

○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着
 ○本鼓とて名を著いで着
 ○本鼓とて名を著いで着

○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着



載冠帶者
 王犬言

東帯と名
 著いで着
 大言

夢馳入帳
 生貴子

○車行
 ○車行
 ○車行
 ○車行

○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着
 ○身まゝに著いで着





○人本...
○元...
○...

○孔雀...
○...

○花...
○...

○...



○...

○...

○...

○...



○牛の走る
 のびのび
 これが
 大い
 さな
 り
 又
 なる

○牛の走る
 のびのび
 これが
 大い
 さな
 り
 又
 なる

○猪の走る
 大い
 なる

○魚水の走る
 大い
 なる

○おくの
 なる

○おの
 なる



○人
 なる

○人
 なる

○人
 なる

○人
 なる

○人
 なる

○人
 なる



○猪が人の
お尻をくじき
尻れが大事
すねはひき
お尻の
かた

○人より
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた



○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた

○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた



○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた

○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた



○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた

○お尻の
お尻をくじき
尻れが
大事
すねはひき
お尻の
かた





○ 山のふもと
○ 山の上
○ 山の中
○ 山の下
○ 山のふもと
○ 山の上
○ 山の中
○ 山の下
○ 山のふもと
○ 山の上
○ 山の中
○ 山の下



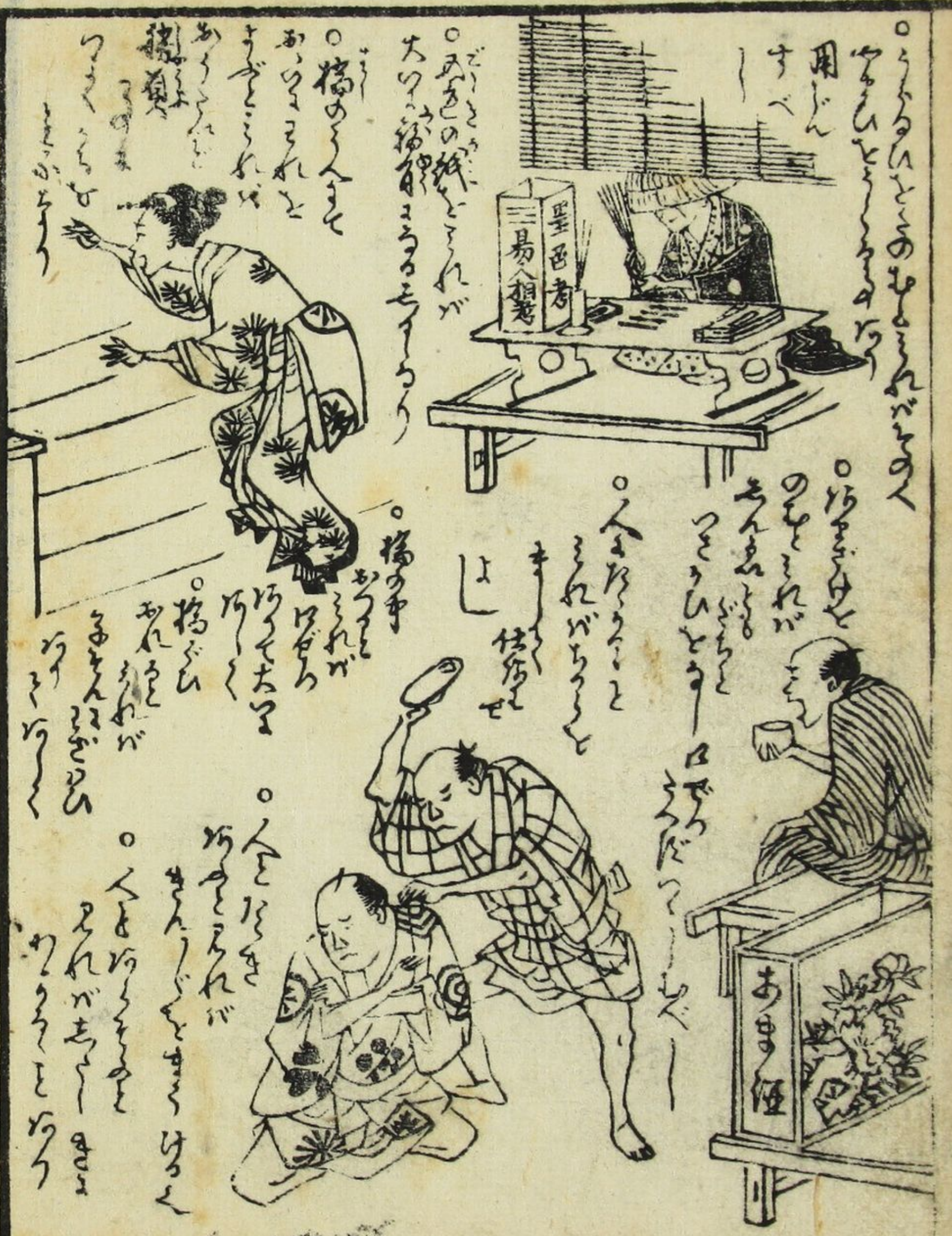
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす
○ 女のきりぎりす



○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と



○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と
○ 又林と



○六甲の爻

これら六十日の甲子より
甲子の一日から十日まで
一

○甲子日

今日甲子日なり。北の方より金銀を
遠方へ移すことあり。

○乙丑日

西の方より金銀を海合の
所へ移すことあり。

○丙寅日

我々の北の方より金銀を
昔より移すことあり。

○丁卯日

南の方より金銀を海合の
所へ移すことあり。

○戊辰日

北の方より金銀を昔より
移すことあり。

○巳巳日

西の方より金銀を昔より
移すことあり。

○庚午日

東の方より金銀を昔より
移すことあり。

○辛未日

酒宴のりなり。北の方より
金銀を昔より移すことあり。

○壬申日

我々の北の方より金銀を
昔より移すことあり。

○癸酉日

北の方より金銀を昔より
移すことあり。

○甲戌日

鬼神のたよりなり。北の方
より金銀を昔より移すことあり。

○乙亥日

北の方より金銀を昔より
移すことあり。

○丙子日

東の方より金銀を昔より
移すことあり。

○丁丑日

南の方より金銀を昔より
移すことあり。

○戊寅日

西の方より金銀を昔より
移すことあり。

○巳卯日

我々の北の方より金銀を
昔より移すことあり。

○庚辰日 月 我々遠方より家々入るるはるのりる

○辛巳日 月 南の方の水は流びつるのりるに走るる

○壬午日 月 南の方よりいづのりるに記でさるる

○癸未日 月 西の方より女まきりる者いとさるる

○甲申日 月 西の方の志よりいづるるをたす

○乙酉日 月 東の方の秋よりいづるるに記のりる

○丙戌日 月 南の方の志より世活のかる法台出るる

○丁亥日 月 西の方よりぬ人あつるの記にお流るる

○戊子日 月 我々の家々のつるるに記のりる

○己丑日 月 我々の住むるつるる酒妻のりる

○庚寅日 月 東の方の志よりいづるるに記のりる

○辛卯日 月 東の方の志よりいづるるに記のりる

○壬辰日 月 我々の家々のつるるに記のりる

○夜中歩むる声
○信じていざいざ
○降るる雨とていづるる



○癸己日 日 東の方より金銀をまきけりるるべし

○甲午日 日 我家に後継りるる酒宴の儀しり

○乙未日 日 北の方知事よりしりるる儀記りるる

○丙申日 日 さいがけざる客人来りてあんがらるるり

○丁酉日 日 南の方親しき人よもめりりるる

○戊戌日 日 遠がよ入来りて者りて若るるりるる

○己亥日 日 来りるる相りり一人の和睦するりり

○庚子日 日 後継りるるりり客と連りりるるりり

○辛丑日 日 西の方の志るる酒宴の儀しりりるる

○壬寅日 日 他人のりりりりりりりりりりりり

○癸卯日 日 北の方よりさいりりりりりりりりりり

○甲辰日 日 かのりのかりりりりりりりりりり

○乙巳日 日 南の方の志るる儀記りりりりりりりり

○丙午日 日 さいがけざる儀記りりりりりりりり

○丁未日 日 我家に後継りるる儀記りりりりりり

○戊申日 日 北の方の婚姻の儀記りりりりりりりり

○己酉日 日 南の方の知事より儀記りりりりりりりり

○庚戌日 日 東の方親しき人よもめりりりりりりりり

北

北

○辛亥日 遠方より金銀をばらばらとせしむるに忌むべし

○壬子日 赤の方明交の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○癸丑日 南の方よりあつらひてせしむるに忌むべし

○甲寅日 北の方より茶葉をとりてせしむるに忌むべし

○乙卯日 西の方より金銀をばらばらとせしむるに忌むべし

○丙辰日 赤の方の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○丁巳日 西の方の家よりあつらひてせしむるに忌むべし

○戊午日 休とあつらひてせしむるに忌むべし

○己未日 金銀をばらばらとせしむるに忌むべし

○庚申日 遠方の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○辛酉日 南の方の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○壬戌日 赤の方の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○癸亥日 北の方の赤よりあつらひてせしむるに忌むべし

○十二直 妻占 夫木 年々終る

○建 赤の方よりあつらひてせしむるに忌むべし

○除 赤の方よりあつらひてせしむるに忌むべし

○満 赤の方よりあつらひてせしむるに忌むべし

○平 赤の方よりあつらひてせしむるに忌むべし



やうなり又曰く後より後より移るるを時なり合ひとは
 けり川べきなり陰合りて森昔しきの葉とのて或は少くは
 幼く川べきなり且枕りて煙燭を燃べりて作氣を安んぜりて
 ○常々所々作き居りて心ゆく物の人を度々て火の
 かくこれに海に居るを寝るを海に居るなり
 ○時々の所々の心ゆく物の人を度々て火の
 亦も人ふ進づきて心ゆく物の人を度々て火の
 心ゆく物の人を度々て火の
 ○凡人は時々とて心ゆく物の人を度々て火の

○中身の内面を壁より向ふ者へ流るる角は元氣の心ゆく物の人を度々て火の
 うり又面を外より向ふ者へ流るる角は元氣の心ゆく物の人を度々て火の
 ○人脚も安く睡るる能く心ゆく物の人を度々て火の
 其人終日心ゆく物の人を度々て火の
 一身の病なり心ゆく物の人を度々て火の
 〇九は心の者も氣血を心ゆく物の人を度々て火の
 兼衛の行も心ゆく物の人を度々て火の
 心ゆく物の人を度々て火の

〇 肌肉をさすゝ氣を志づるお摺の氣お摺くその業事
 おとろへかじゝ湯丸内へ付かある血と心も眼精うんま
 〇 人痛痛く夏るるのまぐ或い夏に鬼物の物とる付ち
 麻次因とけいせじゝ振し又を鹿次因と蒸熱して合つち
 〇 人肝のりまきよ沙木と蒸下振くまろく肝を
 〇 又茶若菜若草ホづれも振く肝とあるくくく
 〇 又草次明まとく振く人とく睡か
 〇 虚し煩くく睡く音くく小まといり振く人
 〇 林擒くく合とれが人く好く睡くくくくく
 〇 木槿くくく飲ののるくく振する人くく
 〇 又梅くくく梅と葉のくくくくくくくくくく
 〇 虚と煩くくく振くくくくくくくくくく
 〇 又痰虚くくく振くくくくくくくくくく
 〇 竹の葉のせじゝゝ細く振くくくくくくくくく

〇 人痛痛く夏るるのまぐ或い夏に鬼物の物とる付ち
 麻次因とけいせじゝ振し又を鹿次因と蒸熱して合つち
 〇 人肝のりまきよ沙木と蒸下振くまろく肝を
 〇 又茶若菜若草ホづれも振く肝とあるくくく
 〇 又草次明まとく振く人とく睡か
 〇 虚し煩くく睡く音くく小まといり振く人
 〇 林擒くく合とれが人く好く睡くくくくく
 〇 木槿くくく飲ののるくく振する人くく
 〇 又梅くくく梅と葉のくくくくくくくくくく
 〇 虚と煩くくく振くくくくくくくくくく
 〇 又痰虚くくく振くくくくくくくくくく
 〇 竹の葉のせじゝゝ細く振くくくくくくくくく

多岐の地帯より後世に於て細糸の如く...
大をたづねる系の本海...
○婦人夢に鬼形...
夢と云ふものと断る...
中人夢に骨...
中糸網目...

夢合長壽鑑繪抄終

新增以 夢合早占大成 全一冊

○此書は...
方は四十七字...
早速重宝...
そのなる...

夢合長壽鑑繪抄 全一冊 近刻

古く前編...
心麻橋通

安政四年丁巳十二月

河内屋徳兵衛持

